

出張報告書

提出日：令和5年1月30日

報告者名：友近祐真

会議名または用件	第2回 薬学教育委員会
出張日時	令和5年1月17日(土) 13:30-15:00
出張先(場所)	草津市立市民総合交流センター205号室
会議の出席者*1	山下先生(医師)、彦根市地域包括支援センターすばる村木孝志 歯科医師 管理栄養士 訪問看護師、理学療法士、の先生方など
概要	「認知症の進行に伴い、今までできていたことができなくなっている方」 について
内容	<p>ケース内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80代男性 要介護1。要介護の妻、長女(介護離職した)と同居。 ・かかりつけ医からは、認知症と診断を受けたが、専門医は受診せず。認知症の処方薬もなし。 ・もの忘れが顕著。これまでできていたことも、娘の指示が必要なことが増えている。 ・夜間～朝方の失禁が多く、長女の介護ストレスとなっている。 ・本人は、何もできなくなったことを自覚し、「もうあかん」と言っている。 ・長女は、認知症の本人とパーキンソン病の母の介護を頑張っているが、本人へのストレスが強く、いずれはグループホームにと考えている。 ・ケアマネージャーとしては、長女のストレスが大きくなり、家族3人で穏やかにしてくれしてほしい。 ・処方薬：アムロジピン錠5mgとランソプラゾールを朝食後、タムスロシンとベシケアを夕食後服用。 <p>以上の内容を踏まえて、家族が3人で穏やかに暮らすために2点の問題点に絞って議論をした。</p> <p>①自立した生活をするために 失禁に関して、水分状況を確認したうえで、夜間の水分の量を減らすなど検討。アムロジピン錠の副作用に腎動脈拡張による尿量の増量を指摘。血圧コントロールができていのであれば、ARBの中でも緩やかな降圧作用のニューロタン、プロプレスを提案。 認知症に関して、噛むことで脳の刺激になり認知症の進行抑制が考えられる。いま入れ歯が合っていないことが発覚。また手が不自由なことが関係しての入れ歯の装着が苦痛に感じている可能性がある。再度歯科医に相談し、入れ歯を調整するように提案。</p> <p>②長女の介護負担の軽減のために 日夏の認知症カフェなどの認知症の家族が集まる場所へ参加することで、介護の悩みを共有し、介護ストレスを軽減する。また、家族3人で過ごした楽しい思い出などを話す機会を設けて、家族で仲良く過ごしてもらおう。本人にはできることをしてもらうために、紙に何をしないといけないかを書いておき、本人が自発的にできるように支援する。</p> <p style="text-align: right;">以上。</p>

*1 会議出席者の名簿を添付してください。